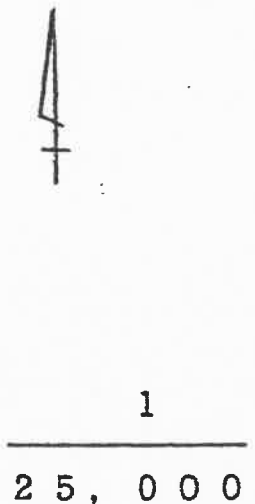


伊知多神社で新遺跡発見される

豊川市 市田町

12月17日朝刊東三河版に掲載されたのでご存じの方も多いと思いますが、去る12月12日に伊知多神社境内において、急傾斜地崩壊対策工事中に古代の瓦を焼いた窯跡と思われる遺跡が発見されました。場所は、伊知多神社社殿南側の崖面（参道階段の下）で、厚い土砂の下に東西幅14mに及ぶ瓦層が埋まっていたものです。

教育委員会では、工事関係者等のご協力をえて、12月13日～15日の3日間にわたって土層図作成等の調査を行いました。工事完了後に遺跡は、古代の謎とロマンを秘めたまま再び防護壁の内側に埋められ保存されます。



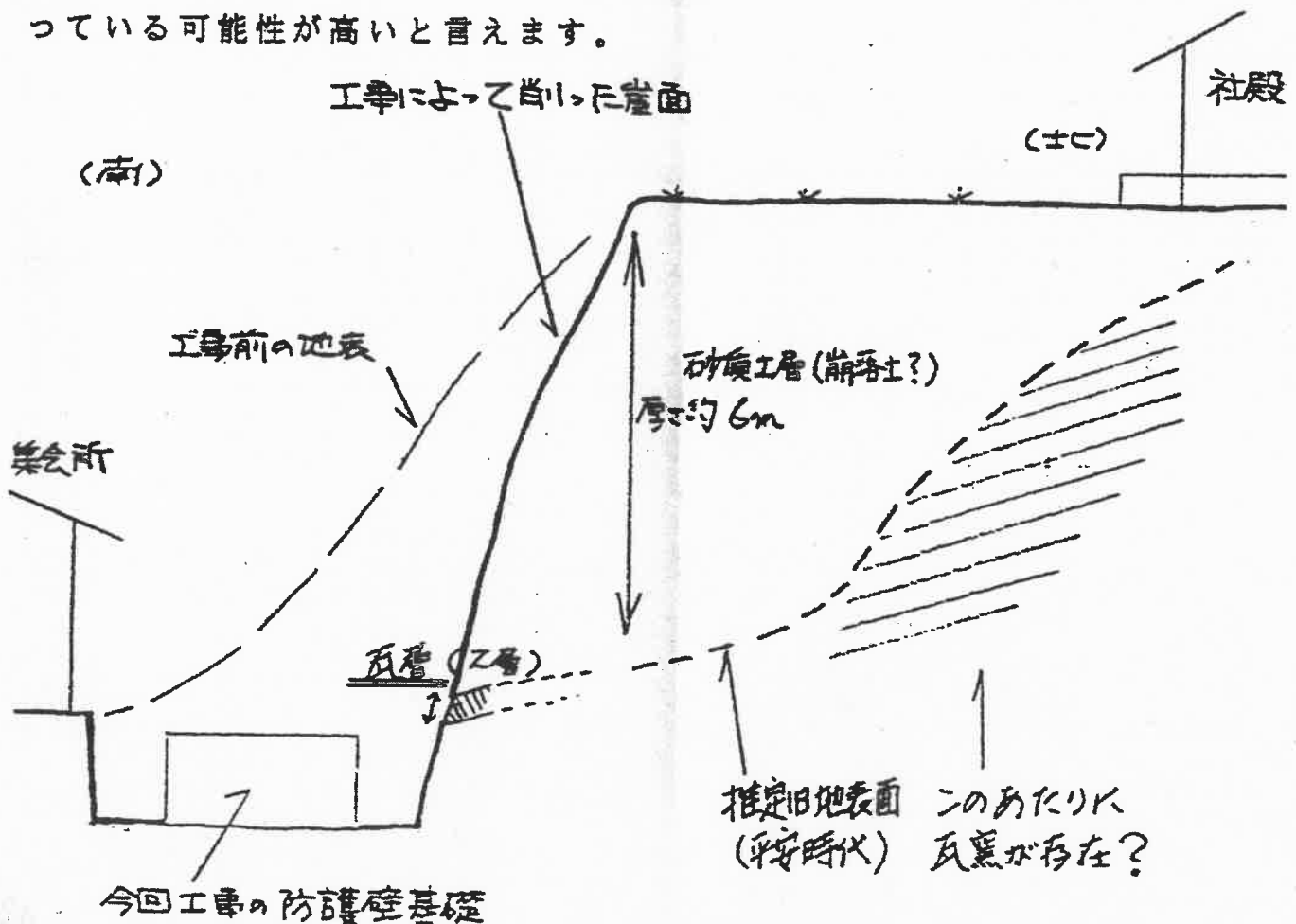
第1図 市内の主な古瓦出土遺跡

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 伊知多神社遺跡 | 2. 赤塚山古窯跡 | 3. 三河国分寺跡 |
| 4. 三河国分尼寺跡 | 5. 総社（推定国府） | 6. 山ノ入遺跡 |

1. 発見された瓦層

工事によって崖面に現われた瓦層は、大きく2つの瓦層に分かれ、上部の瓦層は、厚さ30~40cm 幅1.3m。下部の瓦層は、厚さ10cm 幅3mを測りました。上部の瓦層は、出土した土器から平安時代（今から約900年前）頃の堆積と考えられ、その後のある時代に厚い土砂が崩落（または人為的に埋められる）し、現在の地形を形作ったと推定されます。

また、瓦層の下には灰原（窯の手前側に存在し、窯から灰などをかき出した所）的な黒土層が存在し、社殿の下あたりに瓦を焼いた窯が埋まっている可能性が高いと言えます。



第2図 南北方向断面図（崖より北側は推定）

なお、瓦層の東寄りの部分では、丸瓦と平瓦がそれぞれまとまって積み重なるような状態出土しました。これは明らかに人為的に積みおいた状況を示したみのであり、ここが瓦置場であったことが予想されます
(写真 1 参照)

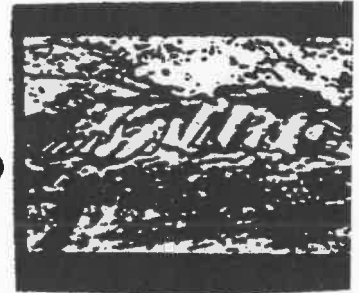
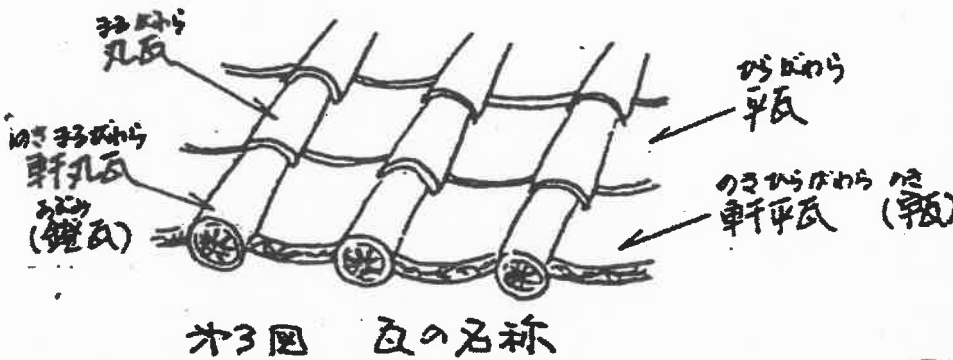


写真1. 瓦出土状態

2. 出土した遺物

今回、伊知多神社遺跡で出土した遺物には、大量の瓦と土器があります。白鳳時代はくほう（約1,300年前）～平安時代（約900年前）のもので、みかん箱10箱分ぐらいの量出土しました。

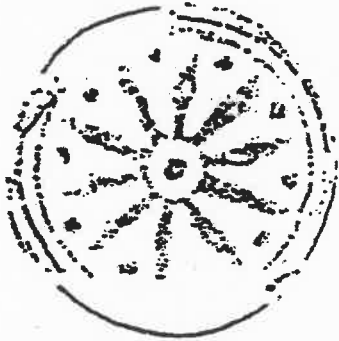
(1) 土器 奈良～平安時代のもので、土師器はじき・須恵器すえき・灰釉陶器かいゆうとうきがあります。

(2) 布目瓦ぬのめがわら（古い時代の瓦には、製作の際に布の痕あとをつけている）

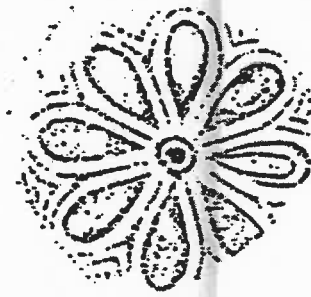
軒丸瓦や軒平瓦の文様から見て、白鳳時代はくほう～奈良時代の瓦と考えられます。（第4図 参照）

中でも、5の軒丸瓦が国府町山ノ入遺跡やまのいりの出土瓦と同型であり白鳳時代と考えられる。他に1の軒丸瓦や4の軒平瓦は、同型・類型が山ノ入遺跡、白鳥町総社、小坂井町篠東医王寺などで出土しており、注目されます。仮に伊知多神社遺跡を瓦窯だがようと仮定すると、この遺跡の瓦がこれらの寺院、国府に供給されたとも考えられるわけです。

(3) 緑釉陶器 (りよくち) 緑色のうわ薬をかけたもの、何かは不明



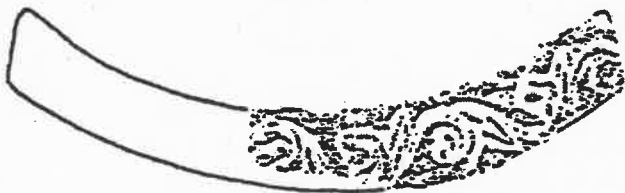
1. 素弁十弁蓮華文
軒丸瓦



2. 単弁八弁蓮華文
軒丸瓦



3. 単弁[?]十六弁蓮華文
軒丸瓦



4. 偽行唐草文軒平瓦



5. 簾状文軒平瓦

第4図 出土軒丸瓦・軒平瓦 (縮尺 1/4)

その昔、豊川市東部の地域は、三河の国の中心地として栄えてきました。当時の瓦葺きの建物は、国分寺や国分尼寺に代表されるような官立の建物や地方の有力者の建立した寺院に限られていたわけですが、今回の伊知多神社遺跡の発見は、これら古代の瓦生産を考える上で注目されます。遺跡の中心がまだ未調査であるため、これが窯であるとは断定できませんが、伊知多神社の東、約500mの場所には、国分寺・国分尼寺の瓦を焼いたと言われる赤塚山古窯跡が存在し、市田町一帯の山麓が古代の瓦生産地であった可能性が強いと言えましょう。

今回のような遺跡の発見、また遺跡の発掘の積み重ねが、郷土の歴史を解明する鍵となります。皆さんも土の中に眠る郷土の歴史に注意を払って下さるようお願いいたします。